

「3年ぶりの船上新年会」 -フェリーきょうと乗船-

2023.2.13 池田良穂

恒例となっていた学会の船上新年会を3年ぶりに開催することができました。参加者は32名で、船は名門大洋フェリーの「フェリーきょうと」。新造1周年を迎えたばかりのぴかぴかの新造船です。

19時50分の大阪南港出港ですが、かなり早めの17時15分に大阪南港のフェリーターミナルに集合し、一般客より一足早く乗船させていただき、ブリッジの見学をさせていただきました。船長と機関長から詳しい説明をいただきました。

18時50分から、レストランの奥の一面をお借りしての新年会を開催。同道していただいた名門大洋フェリーの山本常務から、最近のフェリー業界の状況、新造船のお話等を頂いた後、新年の乾杯をしてから楽しい飲食を2時間ほど楽しみました。

翌朝は、8時半に新門司に到着した後、エンジンルームの見学をさせていただきました。この後、アクセスバスで門司駅、小倉駅まで送っていただき、それぞれに帰路につきました。

筆者は、門司駅からJRで門司港駅に移動して、まずは関門汽船に乗船。1日1000円のフリーパスで、門司港、唐戸(下関)、巖流島の間を何度も乗船してシップウォッチングを楽しみました。巖流島からは、三菱下関造船所で艤装中の「さんふらわあむらさき」の姿が見られました。曇りから雨になるとの天気予報が外れて海峡の空には青空が広がり、雨になったのは夜になってからでしたのでラッキーでした。

門司港駅前のホテルで1泊して、翌日、小倉経由で別府までJRで移動し、杉乃井ホテルの温泉から別府港に停泊する「さんふらわあくれない」の姿を遠望することができました。

18時45分発の日本初のLNGカーフェリー「さんふらわあくれない」について乗船しました。3層吹き抜けの広々としたロビー、扇型に広がる階段、各所に配置された座席など、期待通りの船内でした。

夕食時にはレストランで中濱会員と遭遇して、船談義に花が咲きました。大阪南港到着は6時半でしたので、まだ暗くて、瀬戸内海らしい船旅を楽しむことはできませんでしたが、これは日が長くなる時期にまた乗船して楽しみたいと思っています。



大阪南港に入港する「フェリーきょうと」の姿。竣工時の撮影。



新年会で挨拶・フェリー業界の解説をする名門大洋フェリーの山本常務(左)。



乗船の翌朝、船尾から朝日が昇ってきました。



先を行く阪九フェリーの「やまと」です。



新門司の港に並ぶフェリー群。左からオーシャン東九フェリーの「フェリーひびき」、阪九フェリーの「ひびき」と「やまと」。



巖流島から艀装中の「さんふらわあむらさき」の姿です。4月に大阪南港と別府を結ぶ航路に就航します。



巖流島からのシップウォッチング。世界最大級の海底ケーブル敷設船 Rene Descartes。太平洋を横断する8000kmのケーブル敷設を行った船です。



バルクキャリア「オリエンタル・エメラルド」が東から西へと通過していきました。



内航コンテナ船「ながら」は東航でした。



関門汽船の旅客船「かんもん」です。



関門汽船の旅客船「しいがる」です。



門司港を基点とする遊覧船「Moji」がレトロ地区の一角に停泊していました。

別府から大阪南港へ



明石海峡を通過する「さんふらわあくれない」の姿で、2023年1月の撮影です。



別府のホテル杉乃井から、別府港に停泊する「さんふらわあくれない」を望みましたが小雨が降っていて視界は今一つでした。



「さんふらわあくれない」のロビーの階段です。





レストランのバイキング式の料理コーナーです。



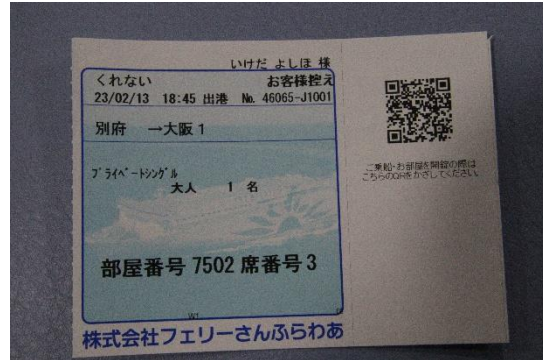
レストランのテーブル席です。



窓に面したレストランのカウンター席です。



廊下には関西汽船時代の懐かしいポスターが飾られていました。



プライベートシングルチケットです。



プライベートシングルの室内です。コンパクトにまとまっています。